



総務省

【観光分野】 地域連携事例集

関西官学連携推進ポータル

■ 観光分野 地域連携事例集 目次

- | | | | | |
|---|---------------------------------|-------------------------|-----|---|
| 1 | デジタル地域通貨を活用した地域活性化施策 | 【滋賀大学×滋賀県】 | ・・・ | 1 |
| 2 | アメニティサービスに係るデータを分析・活用したCO2等削減施策 | 【龍谷大学×滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合】 | ・・・ | 2 |

自治体の課題(ニーズ)



滋賀県では移住相談件数、移住セミナー参加者数および移住者数が増加傾向にある。

一方で、少子高齢化、事業継承者をはじめとする地域づくりの担い手不足拡大が課題となっている。さらに、琵琶湖周辺や城下町など観光資源があるエリアとそれ以外のエリアで、地域魅力に関する情報発信量に差が生じているといった課題等も存在している。

こうした地域課題に対して滋賀県では、地域づくりへの主体的な参画やイベントなど地域交流に参加する全国の「関係人口(訪問系)」を呼び込むため、デジタル地域コミュニティ通貨である「まちのコイン」の導入等を進めているが、その普及啓発をいかに進めるかを模索したいというニーズがあった。

研究成果(シーズ)の還元



デジタル地域通貨の普及と効果についての実証実験を行った。過去には、彦根市の地域通貨「彦」と滋賀県版デジタル地域通貨「ビワコ」の比較や地域づくりの実証実験に参画し、「ビワコ」を使ってみた感想や改善点をアプリ内やSNS等で発信したユーザの獲得、県や市の企画や大学内のイベントと連携した催しや周辺地域と地域通貨を紐づけたスポットの開拓に挑戦した。

また、令和6年度現在、大学内でデジタル地域通貨のプラットフォーム構築の実験として、大学内のフードパントリー「みんなの食品庫」での実証実験を継続している。その他、「ビワコ」を貯めるために、大学を訪れ、様々な体験にチャレンジするなど、学生同士、学生と教職員や地域の人々との交流も活発になるなど、大学や地域の活性化にもつながっている。

この連携に携わった研究者



産学公連携推進機構
柴田 雅美 特命教授

(研究者の経歴又は研究者からのメッセージ)

デジタル地域通貨による人と人との関係性づくりには一定の効果はありました。しかし、アプリを開き、サービスを得るということへの心的ハードルは高いようでした。得られるサービスの種類や数の多い少ないがその広がりに影響をしてくると思います。しかし、地域で必要な価値やサービスを、全てお金の経済と同じように考えていいのだろうか、などの課題も見てきました。

※ 地域連携教育推進センターの活動は(URL:<https://shiga-u.ac.jp/icr/local/>)をご参照ください。

自治体の課題(ニーズ)

滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合 SDGs行動宣言

【滋賀県旅館・ホテルの2030年「目指す姿」】

環境と観光の共生地 ～琵琶湖を守り、琵琶湖と遊ぶ～

【行動指針】

- ① 環境の視点 プラスチックごみの削減(歯ブラシ)
- ② 社会の視点 近江文化継承<食文化・地域産品の活用/地域連携の強化>(米・酒・茶)
- ③ 経済の視点 SDGs (MLGs) に係る宿泊プラン販売による単価アップ

【具体的な数値目標】

- ① 環境の視点 2030年までに アメニティのプラスチックゴミを 0 にする
- ② 社会の視点 2030年までに 滋賀県産食材の使用料を 50% にする
- ③ 経済の視点 2030年までに 客室料(2019年度比較)を +20% にする



宿泊業にとって、おもてなしの一環である「アメニティサービス」を廃止することは簡単ではない、と思われた。



滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合は、滋賀県内で宿泊業を営む203社(2023年2月現在)で構成される組合で、環境推進県である滋賀県の宿泊事業者として、2022年1月に環境と観光の共生を目指したSDGs行動宣言を発表した。

その中で、2030年までに宿泊客に提供するアメニティプラスチックゴミをゼロにすることを目標を掲げたが、現状把握(アメニティの調査)と廃棄物の有効利用やアドバイスを、龍谷大学に依頼された。

研究成果(シーズ)の還元



組合が作成した啓発ポスター



しがCO2ネットゼロみらい賞
表彰式の様子
三日月知事と前川組合理事長

アメニティサービスに係るデータを分析・活用しながら、ライフサイクルアセスメントを実施した。その結果、プラスチック製歯ブラシの場合、2022年度は年間2,068,664本使用し、廃棄量は19.9トン、CO2排出量は127.4トンと算出でき、くし、ヘアブラシ、髭剃り、シャワーキャップなどの値とともに、組合で啓発ポスターを作成、宿泊者への啓発活動を展開中。その結果、組合は滋賀県からR5年度の「しがCO2ネットゼロみらい賞」を受賞した。

※ 滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合の記事HPは(URL: <https://www.shiga-ryokan-kumiai.jp/archives/3138>)を参照下さい。

この連携に携わった研究者



(研究者の経歴)

龍谷大学大学院理工学研究科環境ソリューション工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。
2012年国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター特別研究員。2014年龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科助教に着任、2019年より龍谷大学理工学部環境ソリューション工学講師、2020年より現職。2021年、廃棄物資源循環学会奨励賞を受賞。

※ 研究者の経歴等は(URL: <https://researchmap.jp/mizushin/?lang=japanese>)をご参照下さい。